

日本物理学会 2007 春季大会に参加して

人間文化研究科 物理科学専攻 博士前期過程 1年 桑田真依子

今年の春季大会は、3月25日から28日まで、首都大学東京南大沢キャンパスで開催されました。本会に先立ち、24日には市民講演会が開かれ、JAXAの井上一氏と東京大学の江口徹氏の講演がありました。井上氏の講演では、日本の衛星の歴史や、最新の衛星の仕組み取り組み等を知ることができました。一般公演ではありましたが、両方共に専門的に詳しいお話が聞けたので、為になりました。また、講演後に、他の専門家の方の質問や議論等のやりとりを聞くことができ、参考になりました。

本会では、指導教員の見目正克先生と、博士後期課程の先輩小林由季さんとの協同で、Kerr-AdS時空における物質場の放射問題という題目で発表をしました。内容は(2+1)次元のBTZ時空でのスカラー場の解析的な解から(3+1)次元についての発表でした。宇宙論領域での発表だったので、他の方からの質問や、発表を聞くことで、より大域的な内容を知ることができました。他にも、素粒子論領域の発表を毎日聞き、特にAdS/CFT対応についての多くの研究を知ることができました。今回の経験を生かし、次に繋げたいと思います。

また、本会中に、素粒子論研究室の高橋智彦先生が受賞された、素粒子メダル奨励賞の授賞式が行われました。このような機会に参加でき、また、名誉な場に立ち会うことができ、大変貴重な体験ができました。

